

第 5 回 高校生東南アジア小論文

コンテスト

優秀賞

学習院女子高等科 1 年

戸塚 優菜さん

私は小学校二年生から四年生まで三年間ベトナムの首都ハノイに住んでいた。ベトナムではODAによる援助が継続的に行われていて、ごみ収集車には日本の国旗が描かれ、浄水場では日本のシステムが導入されていた。支援はあらゆる分野で必要とされていて、様々な国や団体からの援助に頼っているのが現状だ。

外務省によると貧困層の90%は地方に集中している。JETROによると地方は都市部と比べて年収が約1.8倍低く、子供一人当たりにかかる教育費は約2.4倍もの差がある。私が通っていた日本人学校ではハノイ市内の二校の現地の小学校と学校を行き来し交流する機会があった。一校の生徒たちとは片言のベトナム語と片言の英語で、もう一校では英語でコミュニケーションが取れていた。小学校三年生の時、家族でハノイから車で約三時間の距離にある貧しい地域の小学校を訪問するボランティア活動に参加した。そこでは水道が通っておらず雨水を溜めて利用していて、ボロボロ

の木の机やゴミだらけの敷地内、ドアがない汚いお手洗いなど、ショックを受けるほどひどい環境で、汚れた机を塗り替え掃除や寄付する新しい校舎の完成のお手伝いをしながら、都市部との格差に驚いた。全校生徒300人ほどに折り紙を教えるという経験をさせて頂いたが、英語は誰も話せそうになく、ハノイから同行したベトナム人スタッフの方が私の英語を通訳して頂いた。

ハノイやホーチミンでは積極的に英語の早期教育やコンピューター教育の導入が進められている。この格差を埋めるために、私は

「HOC」(学ぶ)と「GIUP」(助ける)という二つのアプリの開発と、学校へのWI-FI設備の常設を提案する。運営費は協賛企業のコマニシャルで賄う。ベトナムは携帯の普及率は75%で通信費は日本より安価で、ベトナム大手のモビフォンでは、一日1ギガ使っても一か月で約750円だ。都市部では街中の至る所に無料WI-FIスポットがあり、日本より便利に誰

でも簡単に利用できる。ベトナム国内には既に沢山のE-ラーニングの学習コンテンツが存在している。その特性を活かし、HOCで全国共通の学びをオンライン上で動画やテキストなどで提供する。HOCを使う日だけはお家族に協力して貰い、スマートフォンを借りる。GIUPでは必要としている援助について〇省△小学校トイレ改修工事□ドンなど、必要な内容と現状写真を掲載して支援を呼びかける。アプリはWEBサイトと連動していて、それを見た世界中の国や団体がピンポイントで適材適所に援助が出来る仕組みにする。小学校四年生の時、私は友人と一緒にジュースを売ってその売り上げを先ほどの小学校に寄付した。その後どうなったかとても気になっている。支援を受けたら必ずアプリに報告を上げてもらうようにしたい。支援した側はその記録が残ることで企業のPRにもなると思う。この提案で地域格差が縮小できると私は考える。

参 考 文 献 :

ウ ェ ブ サ イ ト

① 外 務 省 ホ ー ム ペ ー ジ

② ベ ト ナ ム 国 別 援 助 計 画

③ https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/enjyo/viet._h.html

① JETRO ホ ー ム ペ ー ジ

② ベ ト ナ ム 教 育 (EdTech) 産 業 調 査 2021 年 1

月

③ https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/2021/db6cdef49e854b9a/202101.pdf

① mobifone ホ ー ム ペ ー ジ

② 料 金 プ ラ ン (Dịch vụ di động)

③ <https://www.mobifone.vn/>